

2

シブパネルを開催するときに

ここでは、「シブパネル」を実際を開催するときに
気をつけたいポイントをお伝えします。



パネルリストが安心して登壇できるように

① パネリスト、モデレーター、スタッフで 事前打ち合わせをしましょう

パネリストが安心して当日を迎えられるよう、打ち合わせは重要です。モデレーターや他のパネリストと顔を合わせ、心の準備ができるように、当日の質問も事前に伝えます。パネリストの経験や考え方はそれぞれ異なります。お互いを尊重する雰囲気を大切にします。

② パネリストの知りたいことに 気を配ります

たとえば、会場にはどんな属性の聴衆がいるのか、チラシはどのような呼びかけ方になっているのか。当日の内容を記録・公開する予定がある場合はどのような形なのか（主催団体の報告書に掲載される、新聞などの取材が入る、Webに掲載されるなど）等、パネリストが登壇するにあたり、どんな情報があると安心が増えるか考えます。

知りたくないこともあるかもしれませんが。たとえば聴衆からのアンケートは振り返りの場でみんなで読むようにしておくことで、否定的な意見などがあつた際にパネリストがひとりで受け止めなければならない状況を避けることができます。

③ パネリストの知られたいことや 個人情報に気を配ります

姓や年齢など思わぬところから個人を特定できてしまうこともあります。パネリストの名前は、呼んでほしい名前呼び、年齢も年代に留めるのがよいかもしれません。パネリストが気兼ねなく話せるように、パネリストの家族は参加を控えるようお願いしましょう。

④ 当日は振り返りの場を設けましょう

パネリスト、モデレーター、スタッフで安心して振り返りのできる場を設定します。モヤモヤした気持ちが残らないように、素直に語れることを大切にします。聴衆からのアンケートだけでなく、モデレーターやスタッフからも感想と感謝の気持ちを伝えます。



♡ シブパネルが安心安全の場になるように

① 聴き手にも役割があることを 聴衆に伝えます

この場は、パネリストの話し方や、話してくれた内容を評価する場ではないことを共有します。パネリストは、準備の間も、当日も、終わってからも、心が揺れる中で協力してくれていることを知っておきたいです。

② 今日聞いたことはこの場だけ

些細に思えることから個人が特定されてしまうことがあります。撮影、録音しないことはもちろん、この場で聞いたことを人に話したり、SNS等に投稿しないよう伝えます。

③ きょうだい支援に関する基礎知識を 身に付けておくことが望ましいです

聴き手が、きょうだいのもちうる悩みを知っておくこと、自身の価値観や家族観に自覚的であることが大切です。批判やアドバイスをせず話をそのまま聴かせてもらいます。

④ モデレーターが作り出す雰囲気も 場に影響を与えます

モデレーターは、中立の立場で、パネリストの人生を受け止めようとする姿勢や、聴衆が聴きたいと思っていることや相槌を打ちたいと思ったことを代弁します。



シブパネルはみんなで作る場です

パネリスト、モデレーター、スタッフ、聴衆、の信頼関係の中で、みんなでひとつの場をつくりあげていくことが、それぞれの人にとっての安心安全につながります。

パネリストの方へ

●パネリスト（話し手）は、聴き手の責任まで負う必要はありません。

「期待に応えなければ」「きょうだいについて正しく理解してもらわなければ」と気負わず、心がざわざわすることなく話せることだけ、話してください。あなたが話してくださる経験は、とても大切で大きな学びになります。

●自身と家族の情報をどこまで公開するのか整理しておきましょう。どこまで話すかはパネリストに決める権利があります。

●好意的な反応だけではないかもしれないことを想定しておきましょう。

「わかってほしい」「わかってもらわなくて」という気持ちが強いと、伝わらなかったと感じた時の傷つきも大きくなります。ご自身の心を守ることを最優先してください。

